

井尻公民館だより

(令和2年9月1日発行)

<令和2年9月号>

(第198号)

<連絡・問い合わせ先>館長 窪田 道忠
主事 相澤陸奥実

子等集い色とりどりのアイスかな

飯島和子



絵手紙愛好会 新田勝章

この夏は異常気象の影響か前半は雨の日々が続き農産物にも多大の被害も発生しました、8月に40℃を越える気温が各地で観測されており、浜松41.1℃の日本最高対の記録が出ました、またゲリラ豪雨も多く有りました。

例年楽しみにしておりました、納涼祭もコロナウイルスの関係で中止になり残念です。

愛好会の皆さんは公民館利用チェック項目を確認し活動中です、現在は、書道、太極拳、俳句、川柳、手芸、菊の会。計画に基づいて利用しております。他の会も様子見ながら再開を進めております。

ここ来てコロナウイルス感染者が急増しております、各自、日々の生活行動に十分に留意して安心せず常に緊張感持って新たな生活様式に努めていきましょう。

お知らせ

公民館利用チェックの中で参加者の体温チェックの内容の記録については各自が2時間以内に検温した内容を責任者が集計し記録しておりましたが、今回、写真の通り、検温器を導入しました。今後、入館時、利用前に全員の検温し、記録をお願い致します。この記録は公民館にて1ヶ月間の保管となります。

公民館の事業活動で例年10月に行われおりました館外研修会は、いろいろ計画予定しておりましたが、今回はコロナウイルスの関係で、中止とさせていただきますので皆さんご理解をお願い致します。



豊かさはどう付き合うか

部屋の一角の壁に一枚の色紙が飾っている、その内容には

山僧活計茶三畝

漁夫生涯竹一竿

消費期限、賞味期限、3ヶ月ルールなどで食せずして処分されている、食品ロス量は年間600万トンを超えるとされる、日本の食糧自給率は40%そこそこであるのに。

豊かと言う字は食器に食物を一杯に盛り付けると形ですが。

今、私たちは凄い情報が溢れている豊かな社会で生きています、そしてそれらは簡単に得られる、テレビ、インターネット等で、左手にスマホを持ち、右手の人差し指で画面を左に右に上に下に、そしてタッチ、一瞬して世界の情報とか物が手に入ってしまう時代です、冷静な気持ちを持っていないと、溢れる色々な情報に踊らさせられる的確に判断する事が出来ないではないでしょうか、また SNS、メール、ツイッター、に於いても自分が情報の発信元なる、注意しないとトラブルになったりし炎上する事となる。

豊かな物社会、豊かな情報社会、の中で生活していると、人と同じ事とを、していれば安心と感じる、私たちは世の中の新しいもの、華やかなもの、面白おかしくどんどん変わっていくものばかりに目を奪われがちです、行け行けどんどん、何でもあり、そんな風潮も感じることもある。

今後、グローバル化ますます進み、5G、AI、などのデジタル時代でのスピード情報社会になってきています、この、デジタル化時代に、ちっとアナログ感覚で間を取って、考え行動する必要があってもいいと思うのではないのでしょうか。

今の豊かな時代 同じ事をするのは無理としてもコンパクトでシンプルに上手に、間の取れる時間を持って行動して行く事も必要と感じます。

色紙に書いてある内容は。

山に住む僧侶はわずか三畝の茶畑で生活している。

魚を採る漁夫もわずか一本の釣り竿で生計を立てている

貧しいのではなく、これで充分感謝しているのである。

もっと茶畑を広くすれば収入も増え豊かになれる、釣り竿も本数も増やすか投網を使えばもっと豊かになれるはず、でもそれを望まず、物の豊かさでなく、心の豊かを選ぶのである。

豆知識

今回はお金についての話題としました、とは言っても現在でなく江戸時代の貨幣についてです。時代劇を見てもわかるように、金の小判もあり、銀の粒、丁銀、寛永通宝の銅銭などの様に、金貨、銀貨、銅貨が有り、この様に金、銀、銅、の3つがあるものを三貨幣制度と言っています。江戸時代の貨幣でも地域によって異なっている点があります。

愛知県と石川県を結んだ線より東側の東日本は金の貨幣が使用されておりました。一方の西日本は銀の貨幣が流通しておりました。

この違いは、東日本は佐渡、伊豆、陸奥の金、武田信玄の甲州金など金を産出する金山が多かったこと、そして、幕府を開いた徳川家康が武田信玄の甲州金の貨幣制度を取り入れ、褒美などに金を用いた事があげられます。

西日本はなぜ銀なのか、東側と同様に生野銀山、石見銀山など多くの鉱山が銀山だったからの理由もあるが、西日本は鎖国前には大陸と繋がり中国との貿易をしており、中国での流通している銀貨で決済、そのため銀が使われていました、との理由もあり銀には対外的な意味もあったようです。

江戸時代の貨幣の単位は、両、分、朱、文、となりますが、この貨幣制度の基になったのが武田信玄の行っていた甲州金の貨幣制度です、この単位は、両、分、朱、と糸目と言う単位が有ります、皆さん、「金に糸目を付けぬ」とのことわざ有りますね、この糸目はここから来ているとの説もあるんですよ、目的のためならお金をいくらでも出すとの意味で、糸目は単位の小さい金額のため多額だしても問題としないことの意味。64糸目で1両です。

江戸時代の貨幣の単位は4進法で、これも武田信玄の貨幣制度を踏襲しています。わかりやすく説明すると、金1両を基準して1分金4枚で1両、1朱金16枚で1両、これは金の重さ(量)で決まっています。

文(もん)は一般大衆で使われて銭貨です、皆さんよくご存知の寛永通宝です、これは寛永13年(1636)から作られて幕末まで作り流通していました、多くは銅で作られ鉄もありました、色々な種類もありました。

それでは1両は現在の金額に換算してはどの位になるでしょう。江戸時代は米で一石(150キロ)を基準にしていました、江戸の長き時代この基準の変化も多々あり1両の価値も変化有りました、比較的物価が安定していた、江戸時代の後期、文化文政時代(1804~1830)町人文化の最盛期の安定時で1両は18万、1分は4.5万、1朱は1.2万、文は30円のデータが有ります。

(江戸の銭勘定の文献参考)

では庶民の収入は農民約340万、大工約470万、下級武士約430万。

日々生活に於ける物価を幾つか挙げて見ましょう。

江戸料理の定番といえば、そば、うどん、16文(480円)、にぎりすし一貫8文(240円)、酒1升250文(7500円)、玉子一個20文(600円)、大根10本72文(2160円)、なす10個5文(150円)、マグロ1尾200文(6000円)、カツオ1尾250文(7500円)

銭湯8文(240円)、旅籠1泊200文(6000円)

ここでは1両は6000文です。

金貨、銀貨、銅貨は時代とともにいろいろな種類が铸造されました。



(俳句)

(井尻公民館俳句愛好会)

2020/7/28

閑古鳥床屋の革砥よくしなる

(三柵 淳)

端流の風は篠笛月見草

(増田英仁)

誰が為に夜に香を放つ月見草

(飯島和子)

波音に開き浜辺の月見草

(小笠原一子)

外来の草にかくれし月見草

(三森美恵子)

山の湯に蝸の声溶け込めり

(小林昂平)

兄弟の喧嘩治まり氷菓子

(飯島武志)

(川柳)

(井尻公民館川柳愛好会)

2020.7.24

人生は冷汗三斗の繰り返し

(久保 晃)

つり橋に冷や汗かいて引き返す

(広瀬 勝)

汗かくもクーラー避ける老いの日々

(三井厚子)

もの言わぬ汗が心の窓開く

(田辺たみ子)

コロナ禍に負けぬ球児の汗光る

(古屋典子)

冷夏でもマスクの中は汗まみれ

(雨宮江身子)

雑草に負けない気持ち汗にこめ

(中村廣一)

汗流す我が人生に悔いはなし

(関口正次)

ダイヤより光る農婦の玉の汗

(飯島武志)

(短歌)

(古屋和子)

猛暑日全国一の日もありし

倒れぬように気を配る日々

立秋の声を聴きては毎年に

お盆の準備何かと始め

